

2 パネリストによる講演

2.1 高知会場

2.1.1 学校における突然死・心停止事故の防止

パネリストによる講演

「学校における突然死・心停止事故の防止」

鮎澤 衛

神奈川工科大学 健康医療科学部
日本大学医学部小児科

(略歴)

日本小児循環器学会理事であり、循環器及び小児循環器専門医。突然死、心停止を専門としている。

(1) 学校管理下の突然死と心停止

① JSC(日本スポーツ振興センター)における学校管理下突然死報告事例の集積

- ・突然死は、WHO 定義で発症から 24 時間以内に死亡したもの。
- ・災害共済給付制度上は、心停止発症後、改善なく相当期間を経て死亡に至ったものを含む。
- ・災害共済給付審査委員会により判定。
- ・学校管理下とは家を出てから帰宅するまでを指し、課外授業を含む。
- ・原因により、心臓系、中枢神経系、大血管系その他に制度上分類される。

② 心臓系突然死

- ・学校管理下突然死では心臓系突然死は減少傾向にある。(1983～2022)

【推定原因疾患】

- ・先天性心疾患(術前): 大動脈弁狭窄, VSD, 肺血管閉塞性病変, 修正大血管転位など
- ・先天性心疾患(術後): 大血管転位, ファロー四徴, 肺動脈閉鎖, 三尖弁閉鎖など
- ・後天性心疾患: 川崎病後遺症, 心筋炎, 肺動脈性肺高血圧, Marfan 症候群など
- ・心筋症: 肥大型、拡張型
- ・不整脈: 心室頻拍、WPW、QT 延長症候群、洞不全症候群など
- ・心電図異常: 不完全右脚ブロック、ST-T 異常、完全右脚ブロック、房室ブロック、異常 Q 波、左軸偏位 など
- ・剖検で発見: 冠動脈奇形、心筋炎、心筋症

(2) 蘇生成功例の増加

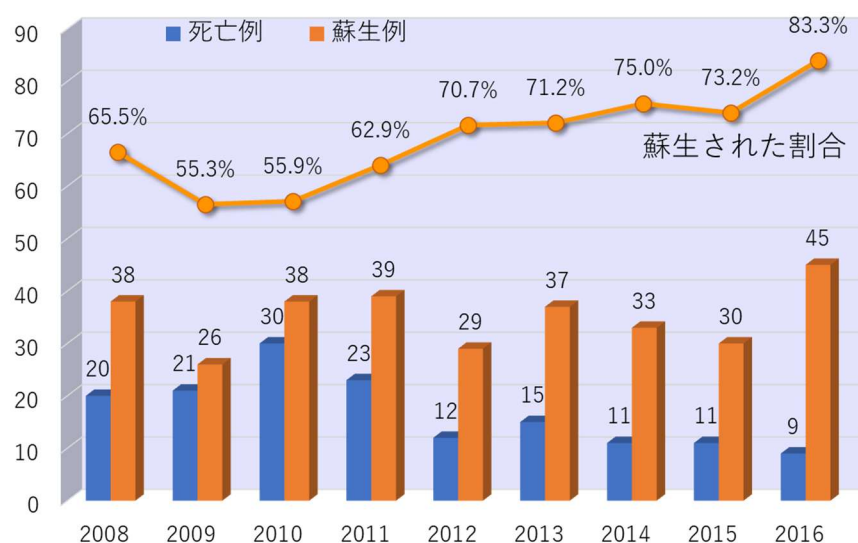
① 救急救命処置の普及

- ・国内初の AHA-BLS、ACLS プロバイダーコース開催(2003 年 10 月)。
- ・AED の使用が一般に解禁(2004 年 7 月)。

②蘇生率

蘇生率は向上しているが、毎年、平均 約 50 例の心停止が発症している。

図表 学校管理下心停止の死亡/蘇生例数(2008～2016)



JSC データより演者集計作成

(3) 今後の課題と結語

①学校心臓検診の限界

学校心臓健診で発見できない疾患もある。

- ・特発性心室細動(近年最も多い診断名になっている。)
- ・先天性の冠動脈異常
- ・Marfan 症候群
- ・カテコラミン誘発性多形性心室頻拍など

* 検診で発見されていない生徒でも、事故が起こらないという期待(楽観)はしない。起きたらどうするかをシミュレーションして、救命処置と AED の講習を受けておく。

②結語

学校災害共済給付制度からの突然死/心停止に関するデータを調査した結果、下記の状況が認められている。

- ・学校管理下での心臓系突然死は、この 30 年間で明らかに減少した。
- ・心停止例は減少なく、年間 50 例前後発生している。
- ・近年の心停止の原因は心室細動が多くを占めている。
- ・蘇生成功例が増加しており、今後も BLS/AED 講習の継続が期待される。
- ・ICD、ペースメーカーなどの医療機器を植え込んでいる児童・生徒が増えつつあり、医療者と学校関係者の協議により管理方法を確認する必要がある。

(4) 発表資料

1

令和7年度 スポーツ庁
学校における体育活動での事故防止対策推進事業

学校における突然死・心停止事故の防止

神奈川工科大学 健康医療科学部
日本大学医学部小児科
鮎澤 衛

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

2

本日の内容

- ・学校管理下の突然死と心停止
- ・蘇生成功例の増加
- ・今後の課題

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

3

本日の内容

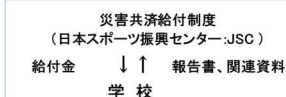
- ・学校管理下の突然死と心停止
- ・蘇生成功例の増加
- ・今後の課題

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

4

学校管理下事故・災害共済給付制度

- ・災害(負傷、疾病、死亡)発生時



- ・2021年 加入率:全国小学～高校生徒の99% (幼稚園・保育園児の81%)
- ・2021年 給付件数:166万5,427件(生徒数の10.3%)
- ・医療費(負傷、病気)、障害見舞金、死亡見舞金

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

5

「災害の状況」(20XX年 突然死例)

例) 中学生女子

健康診断で**基礎疾患なし**。運動部活動でアップとして校舎周りを**走った**(約1,250m)
後に、**呼吸が苦しくなりしゃがみこんで**しまった。教諭が現場に駆けつけ、保健室に
運び、救急隊が到着するまで声をかけていた。救急隊による**AEDの使用はなく**救急
隊の呼びかけにも応えていたが、医療機関搬送中に心肺蘇生が行われた。病院で
処置を受けたが、同日**死亡した**。

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

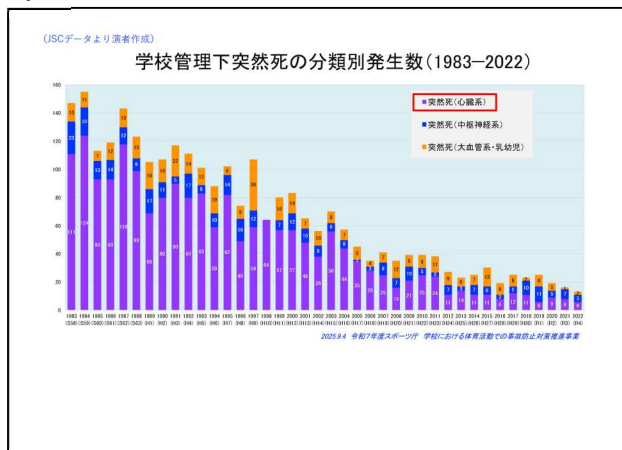
6

JSCにおける学校管理下突然死報告事例の集積

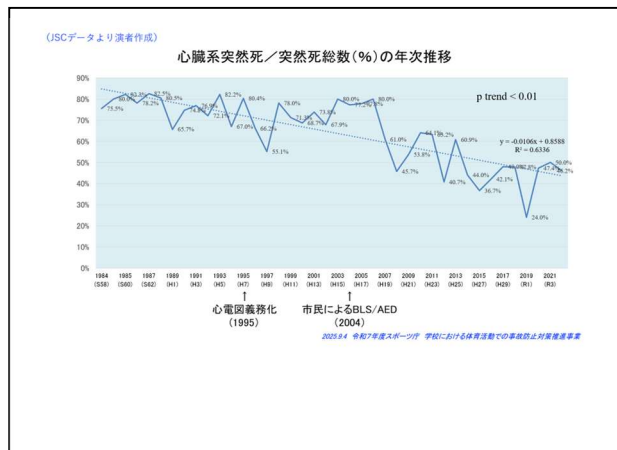
- ・(WHO定義)発症から24時間以内に死亡したもの
- 災害共済給付制度上は、心停止発症後、改善なく相当期間を経て死亡に至ったものを含む。
- ・災害共済給付審査委員会により判定
- ・学校管理下:家を出てから帰宅するまで。課外授業を含む。
- ・原因により、**心臓系、中枢神経系、大血管系その他**に制度上の分類。

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

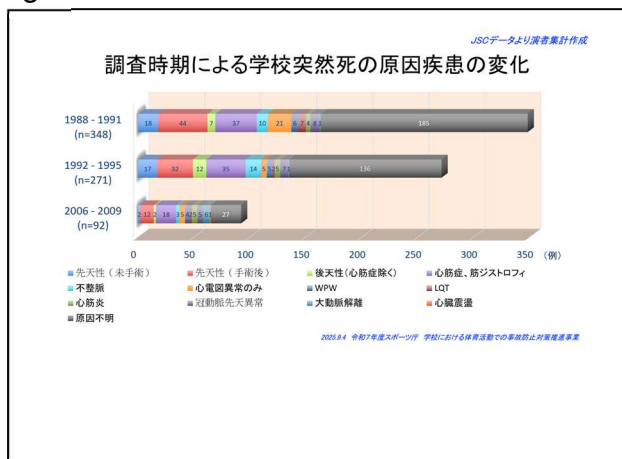
7



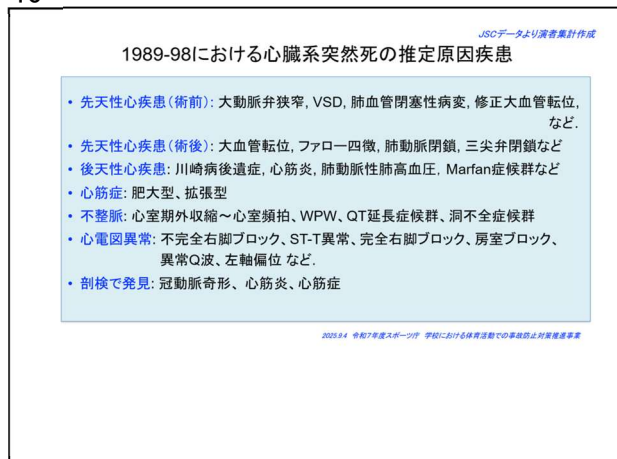
8



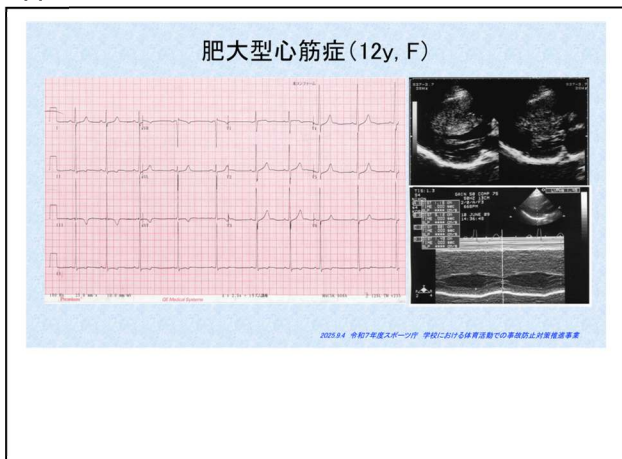
9



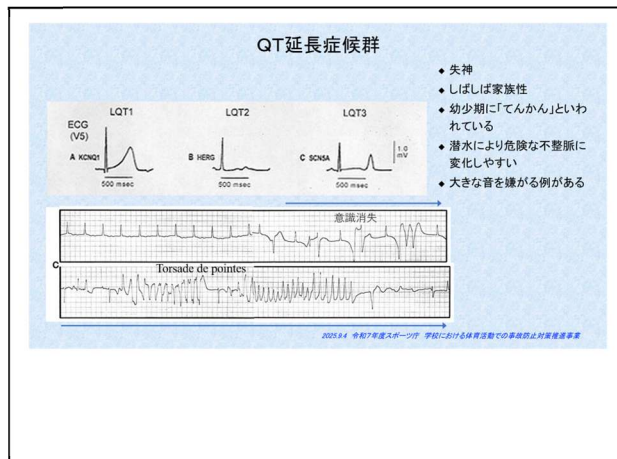
10



11

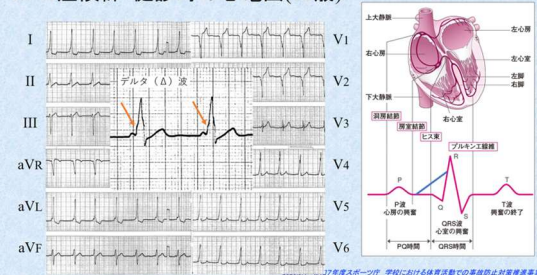


12



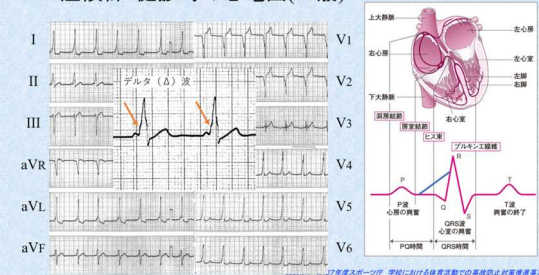
13

WPW症候群: 健診時の心電図(12歳)



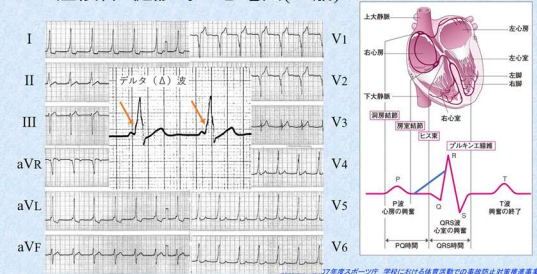
14

WPW症候群: 健診時の心電図(12歳)



15

WPW症候群: 健診時の心電図(12歳)



16

検診で発見できる疾患の学校管理下突然死の頻度

疾患群	1989-92	2008-2013	2014-2016
QT延長症候群	7 (1.8/年)	10 (1.7/年)	1 (0.3/年)
WPW症候群	6 (1.5/年)	3 (0.5/年)	3 (1.0/年)
心筋症	37 (9.2/年)	40 (6.7/年)	8 (2.7/年)

(JSCデータより演者集計)

2025.5.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

17

事例 心臓震盪

事例1) 中学校1年 男子

ピッチャーが投げたボールを当該生徒がバントをしようとした。その際、ボールが直接、胸に直撃した。ボールが当たって、5秒後くらいに膝から地面に倒れた。顧問が部員に職員を連れてくるように伝えた。すぐに、養護教諭が心臓マッサージとAEDを行った。同時に119番で救急車を要請。病院に搬送した。

事例2) 高等学校2年 男子

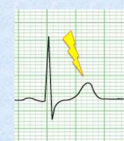
サッカーの試合中に、相手の選手と競っていたところ、相手選手の頭が胸に接触。倒れたまま起き上がらず、足が痙攣していたので、審判が試合を止める。本人は意識がない状態であった。相手チームの教員の判断ですぐに胸骨圧迫をし、救急車を要請すると同時に保護者に連絡し、病院に運んだ。

2025.5.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

18

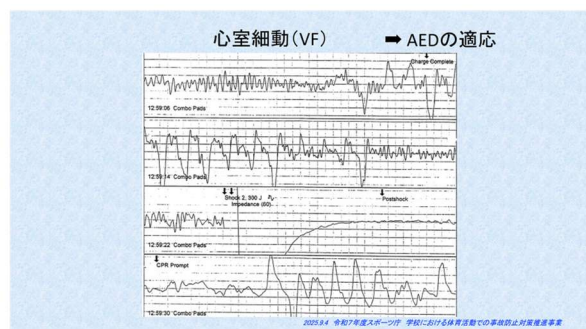
心臓震盪 (しんぞうしんとう)

- 胸部への打撃で起こる心室細動。突然死ありうる。
- 米国データ:
 - 95% 男児
 - 62% 何らかの公式運動競技中
 - 58% : 野球+ソフトボール
 - 16% : アイスホッケー
 - その他: クロス、サッカー、格闘技 など
 - ボール以外でも起こる
 - 心臓直上への衝撃 T波のピークの0.01~0.03秒手前
 - ボールの硬さ
 - プロテクター使用者でも起こる。
 - 5分以内のAED使用 が効果的。



2025.5.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

19



20

本日の内容

- 学校管理下の突然死と心停止
- 蘇生成功例の増加
- 今後の課題

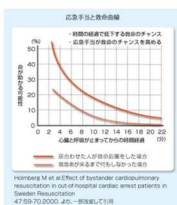
2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

21

救急救命処置の普及:BLS&AED

2003年10月 国内初のAHA-BLS、ACLSプロバイダーコース開催

2004年7月 AEDの使用が一般に解禁

政府広報オンライン <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/200801/1.html>

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

22

学校管理下の突然死: ASUKAモデル



2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

23



24

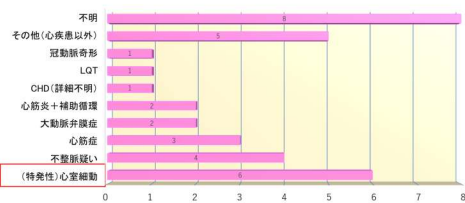
学校におけるAEDと救命処置講習: 文部科学省調査(2007, 2010, 2015)

実施校の割合	2007	2010	2015
年度末までにAEDを設置(予定)の学校	40.0%	88.8%	93.9%
AED設置校中、定期的に点検を行っている学校		97.9%	98.3%
AEDを含むBSL講習を教員に行っている学校		89.4%	91.4%
AEDを含むBSL講習を生徒も受けている学校		調査なし	49.5%
中学校		調査なし	71.2%
高校			81.2%

2025.8.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

25

(JSCデータより演者作成)

最近の心臓系突然死33例の原因疾患
(2018-2021)

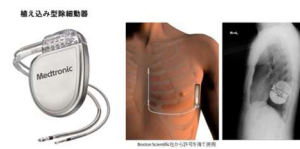
2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

26

2015年 蘇生成功例 「災害の状況」の記述概要

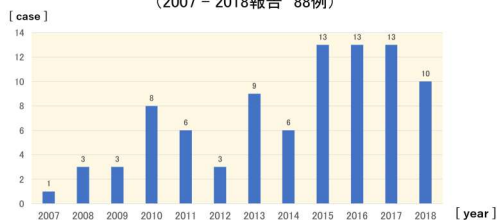
例) 保健体育の時間、運動場で持久走をしていた。2,000m走り終え、体操座りでのまどめの話を聞いていたとき、意識を失ってうしろ側に倒れた。体育の教諭が声を掛けると意識を取り戻したが、またすぐに意識を失って倒れた。AEDを含めた心肺蘇生を実施し、病院に搬送、ICDの植込みを行った。

ICD (implantable
Cardioverter Defibrillator)
: 植え込み型除細動器



2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

27

学校で救命処置後にICDを植え込んだ生徒数
(2007 - 2018報告 88例)
https://www.jnsport.go.jp/anzen/zenen_school/taid/922/Default.aspx (2024/07/07閲覧) より演者集計

2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

28

JSCデータより演者集計作成

学校管理下心停止の死亡／蘇生例数 (2008 - 16)



蘇生率は向上しているが、
毎年 平均 約50例の心停止
が発症している。

2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

29

JSCデータより演者集計作成

学校管理下心停止の死亡／蘇生例数 (2008 - 16)



蘇生率は向上しているが、
毎年 平均 約50例の心停止
が発症している。

2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

30

本日の内容

- ・ 学校管理下の突然死と心停止
- ・ 蘇生成功例の増加
- ・ 今後の課題

2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

32

2025.6.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止が推進事業

《軽い運動》
同年齢の平均的児童にとって、ほとんど息がはずまない程度の運動。

《中等度の運動》
同年齢の平均的児童にとって、少し息がはずむが息苦しくない程度の運動。
パートナーがいれば案に会話ができる程度の運動。

《強い運動》
同年齢の平均的児童にとって、息がはずみ息苦しさを感じるほどの運動。
心疾患では等尺運動の場合は、動作時に前を食いしばったり、大きな掛け声を伴ったり、
動作中や動作後に行われる紅潮、呼吸促進を伴うほどの運動。

※体力テストで行われる**シャトルラン・持久走**は強い運動に属することがある。

2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

34

起きたらどうするか、を想像(シミュレーション)する。

2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

2025.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

36

3025.84 令和2年度スポーツ庁 奨励における体育活動での事故防止対策推進事業

2025.4 令和7年度より11年度 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

37

結 語

学校災害共済給付制度からの突然死／心停止に関するデータを調査した結果、下記の状況が認められている。

- ・ 学校管理下での心臓系突然死は、この30年間で明らかに減少した。
- ・ 心停止例は減少なく、年間50例前後発生している。
- ・ 近年の心停止の原因は心室細動が多くを占めている。
- ・ 蘇生成功例が増加しており、今後もBLS/AED講習の継続が期待される。
- ・ ICD、ペースメーカーなどの医療機器を植え込んでいる児童・生徒が増えつつあり、医療者と学校関係者の協議により管理方法を確認する必要がある。

2023.9.4 令和7年度スポーツ庁 学校における体育活動での事故防止対策推進事業

38

ご清聴ありがとうございました。



2.1.2 安全教育全般・運動部活動・水泳等の視点

パネリストによる講演

「安全教育全般・運動部活動・水泳等の視点」

佐藤 豊

桐蔭横浜大学スポーツ科学部学部長
スポーツ教育、部活動等

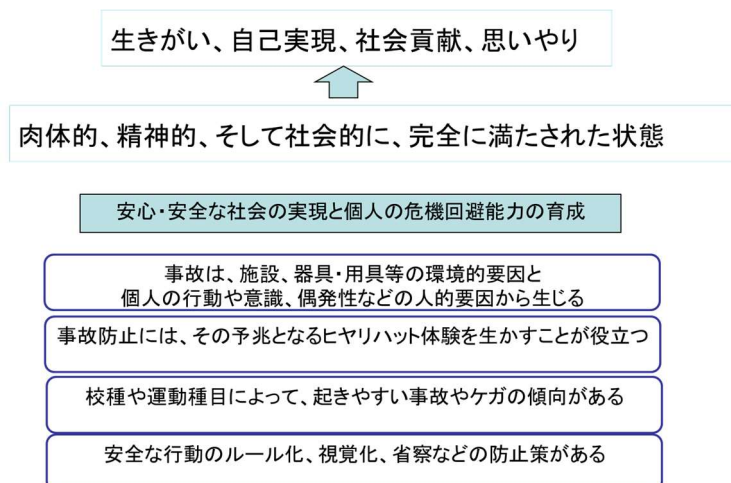
(略歴)

学校等における事故防止のための情報発信専門部会委員、横浜市学校保健審議会委員、福岡県部活動改革協議会座長、中央教育審議会 体育・保健体育・健康・安全ワーキンググループ委員等に從事。

(1) Well-Being の再認識

○Well-Being とは、具体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

図表 Well-Being の実現に向けた安全についての知識構造化例



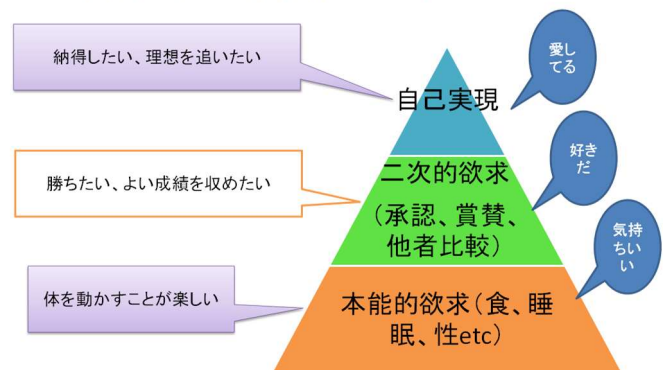
(2) 体育・スポーツ事故の発生要因

・スポーツを通じて「地域社会の再生」

「健康で活力に満ちた長寿社会の実現」「国民経済の発展」「国際相互理解」等を進め、社会の活性化・課題の解決に寄与することができる。(外材的価値)

・スポーツの楽しさを深く味わうためには、体を動かすことが楽しい、心地よいといった本能的欲求を満たしたうえで、賞賛されたい、他者より優れた成果を挙げたいなどの二次的欲求、さらに高次の欲

図表 楽しさを深く味わうために



求としての、理想や納得などの自己実現に向けて向き合うことが求められる。(内在的価値) 特に、内在的価値を高めるアプローチを大切にしたい。

(3) 負傷・傷病別医療費支出

全ての校種で、発生する負傷、傷病は、骨折、捻挫、挫傷・打撲がおおよそ 3/4 を占めている。
(日本スポーツ振興センター、令和4年資料より)

(4) 水泳の安全指導

① 飛び込み事故の現状

平成17年度～27年度に、授業や部活動などの飛び込みで障害が残った事故は、少なくとも 32 件起きており、そのほとんどがスタート時に逆さまに深く入水し、水底に頭部を打ち付けて起こっている。(日本スポーツ振興センター資料より)

② 潜水事故の現状

無理な息こらえによる事故も生じている。無理な息こらえや過換気を伴いがちな潜水にあつては、血液中の酸素濃度が低下することによって意識が喪失し、意識喪失において生じる呼吸の反射によって自ずと気管内に水を吸引し溺水に至る危険性がある。

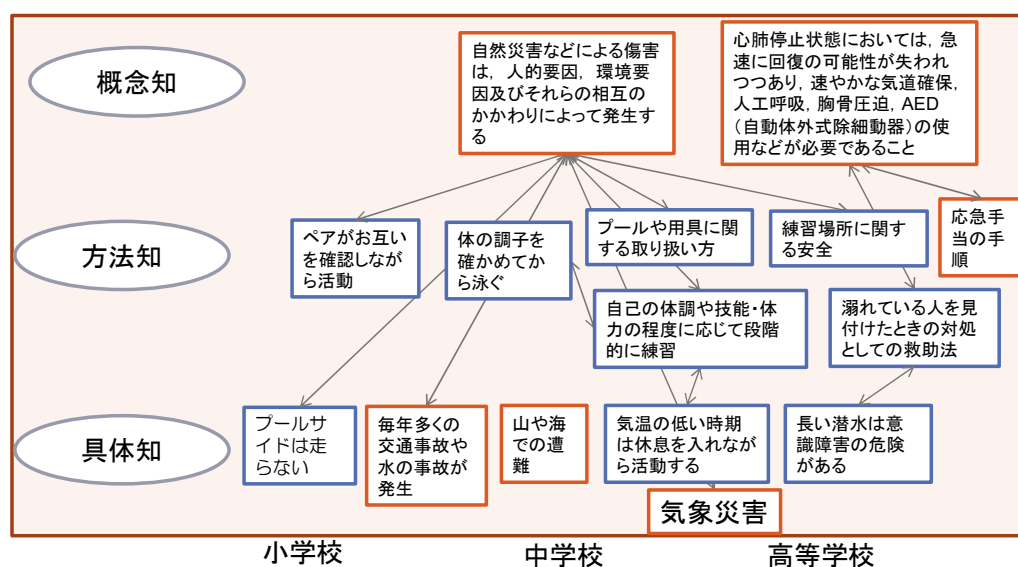
② 学校管理下における水泳事故(溺水)を防ぐために

体育・保健体育では、領域の確実な学習と関連を図る指導の充実が必要。

資料は、2010 年改訂の指導内容を整理したものであるが、体育分野では、安全な行動を行うための具体的な所作などが記載されている。校種が上がるにつれ、概念との関連が図られている。保健では、危険に対する発生要因や対応の概念や手順などを主に原理・原則を多く学んでいく。

カリキュラムマネジメントの視点から体育と保健の関連を図る、スパイラルの学習を意識しつつ、発達の段階に応じた重点を図ることで、児童・生徒自身の危機管理、危機回避能力を高めることが重要である。

図表 体育分野、保健分野の発達段階に応じた知識の整理と関係性(2015)



7

ウェルビーイングの向上について（第4期教育振興基本計画参考） 資料1-3

ウェルビーイングとは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く環境、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

なぜウェルビーイングが求められるのか

- 経済先進諸国において、GDPに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを実現する考え方が重視されてきている。
- OECD（経済協力開発機構）の「Learning Compass2030（学びの羅針盤2030）」では、個人と社会のウェルビーイングは「私たちが望む未来（Future We Want）」であり、社会のウェルビーイングが共通の「目的地」とされている。

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づいたウェルビーイングを教育を通して向上させていくことが求められる。

個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング（獲得的要素）

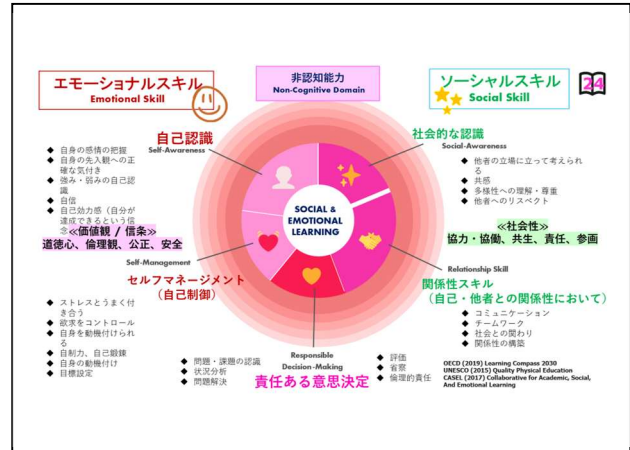
- 自己肯定感
- 自己実現 など

人とのつながり・関係性に基づくウェルビーイング（協調的要素）

- 利他性
- 協働性
- 社会貢献意識 など

⇒日本の特徴・良さを生かす「調和と協調（Balance and Harmony）」に基づいたウェルビーイングを日本発で国際発信
 [例：インドネシアG20教育大臣会合・議長リポート]
 (略)to work towards the achievement of balanced and harmonious oriented well-being and universal quality education by 2030.

8



9

「スポーツそのものが有する価値」

具体的には、基本法前文において「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のもの」と示されていることも踏まえながら、第3期計画では、「スポーツ」は「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、「楽しさ」や「喜び」を感じることに本質を持つものとして捉えることとしている。

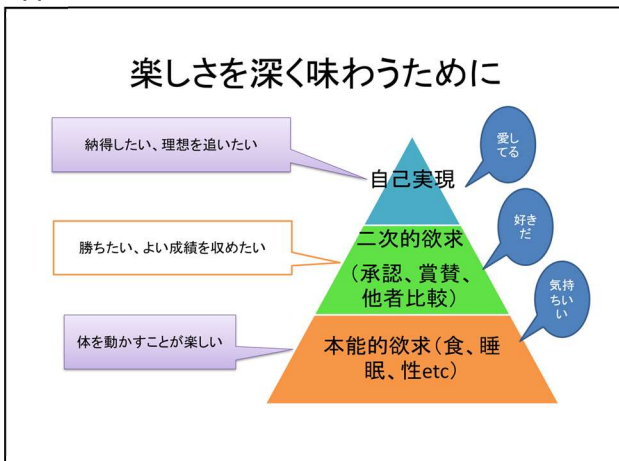
「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」

具体的には、基本法前文にもあるとおり、スポーツを通じて「地域社会の再生」「健康で活力に満ちた長寿社会の実現」「国民経済の発展」「国際相互理解の促進」等を進めることで、社会の活性化・課題の解決に寄与することができることである。また、地域のスポーツ活動を通じて社会的孤立の解消につなげるなどの課題解決にも寄与することができる。

10



11



12

「中核的概念（ビッグアイデア）」を通じた教育課程の構造化は世界 資料1-3

◆ 近年カリキュラムの全面改訂を行った国・地域において、しばしば各教科の学習の中核となる概念（しばしば「ビッグアイデア」）の下で内容の整理が行われている。OECDが2020年に公表した報告書「カリキュラムの（再）デザイン」では、「12のカリキュラムのデザイン原則」が提示され、「ビッグアイデア」を用いてカリキュラムを構造化することが原則の一つとして位置づけられている。

① 教科内のデザイン原則

1. Focus（焦点化）
2. Rigour（知的挑戦）
3. Coherence（一貫性）

② 教科横断のデザイン原則

4. Transferability（転移可能性）
子供たちが得た知識・技能が他の状況でも活用される機会となる概念やビッグアイデアを理解し、それらがどのように他の教科に適用できるかをわきまにカリキュラムを構造化する
5. Interdisciplinary（教科横断性）
6. Choice（選択性）

③ 社会に関与したデザイン原則

7. Authenticity（真正性）
8. Flexibility（柔軟性）
9. Alignment（整合性）

④ 過程に関するデザイン原則

10. Engagement（参画）
11. Student Agency（生徒のエージェンシー）
12. Teacher Agency（教師のエージェンシー）

（各国の事例）

アメリカ・カリフォルニア州（カナダ）

カリフォルニア州の「カリキュラム・フレームワーク」は、学習分野における理解の中心となる内容を「カリキュラム・コア」に示し、各分野の知識を深めるための学習目標、概念、技能、態度、知識（2016年）を明らかにしている。カリキュラム・コアは、カリキュラムの中心となる内容を明確に示すことで、「学びが深まる」という目標を達成している。（2022年）

韓国

「ビッグアイデア」を軸に設定した内容体系の枠組みの全国的な展開。本実施例「内容体系：道徳・理解・技能・知識」は、道徳・理解・技能・知識の4つの領域を明確に示し、各分野の知識を深めるための学習目標、概念、技能、態度、知識（2016年）を明らかにしている。カリキュラム・コアは、カリキュラムの中心となる内容を明確に示すことで、「学びが深まる」という目標を達成している。（2022年）

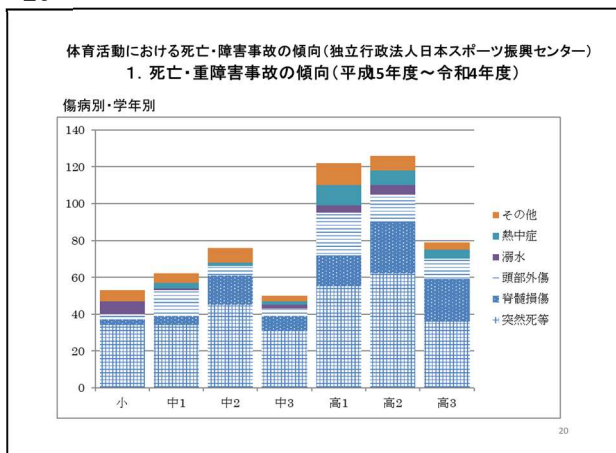
シンガポール

「ビッグアイデア」を軸に設定した内容体系の全国的な展開。本実施例「内容体系：道徳・理解・技能・知識」は、道徳・理解・技能・知識の4つの領域を明確に示し、各分野の知識を深めるための学習目標、概念、技能、態度、知識（2016年）を明らかにしている。カリキュラム・コアは、カリキュラムの中心となる内容を明確に示すことで、「学びが深まる」という目標を達成している。（2022年）

オーストラリア

「ビッグアイデア」を軸に設定した内容体系の全国的な展開。本実施例「内容体系：道徳・理解・技能・知識」は、道徳・理解・技能・知識の4つの領域を明確に示し、各分野の知識を深めるための学習目標、概念、技能、態度、知識（2016年）を明らかにしている。カリキュラム・コアは、カリキュラムの中心となる内容を明確に示すことで、「学びが深まる」という目標を達成している。（2022年）

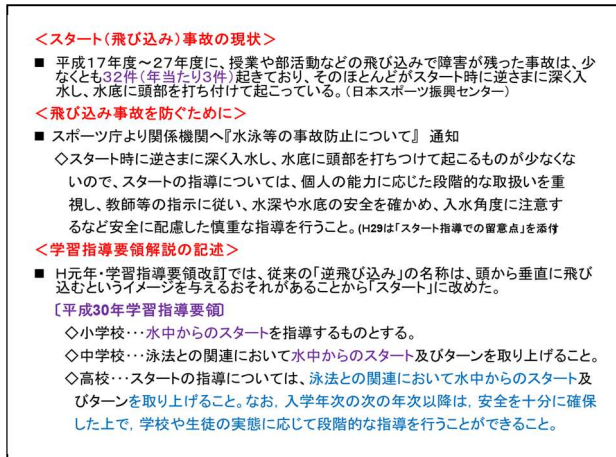
20



22



24



25

3. 無理な息こらえによる事故→潜水事故)

<無理な息こらえによる事故例>

■ H8年9月5日、大阪教育大学附属高等学校池田校舎の女子生徒が、1時間目の水泳授業で潜水距離測定中に溺れ、9月12日死亡した。

<無理な息こらえの危険性、ノーパニック症候群とは> (H13.3.2 秋版地裁判決文)

■ 無理な息こらえや過換気を伴いながら潜水にあっては、血液中の酸素濃度が低下することによって意識が喪失し、意識喪失において生じる呼吸の反射によって自ずと気管内に水を吸引し溺れに至る危険性がある。

■ 特に、潜水の息こらえの前に過換気(深い呼吸を繰り返すこと)によって血液中の二酸化炭素濃度が低下し、呼吸飢餓感のないまま血液中の酸素濃度が低下して意識が喪失し、苦しみもがくことなくそのまま溺れに至る危険性(ノーパニック症候群)も報告されている。

<ノーパニック症候群の危険性防止に向けて> (水泳指導の手引(2訂版)H16文科省)

- ①潜水が教材として必要であるかを検討する。……学習指導要領の内容にはない
- ②潜水を行う場合には、潜水の危険性を生徒に周知する。
- ③潜水の前に必要以上に深い呼吸を繰り返すことはしない。
- ④無理な息こらえをせず、少しでもおかしいと思ったら潜水を中止する。
- ⑤潜水する者と監視する者とのマンツーマン体制を確保する。

26

水泳授業における事故防止に向けた留意点

2017中学校保健体育学習指導要領解説

内容の取扱い

(2)内容の「A体づくり運動」から「H体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。

エ 「D水泳」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からア又はイのいずれかを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからオまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じ、安全を確保するための泳ぎを加えて履修させることができること。また、泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げること。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。

「キーワード」
安全を確保する泳ぎ
水中からのスタート
事故防止の心得
応急手当

26

27

2017学習指導要領
体育(学びに向かう力)健康・安全

	小学校	中学校	高等学校
安全に気を付けたりする (低学年)	安全に気を付けたりする (中学年)	安全に気を配ったりする (高学年)	
解説例	準備運動や整理運動をしっかりと行う、丁寧にシャワーを浴びる、プールサイドは走らない、プールに飛び込まない、友達とぶつからないように動くなどの水遊びの心得を守ること。また、水遊びをする前には、体(爪、耳、鼻、頭髮等)を清潔にしておくこと。	準備運動や整理運動を正しく行う、バディで互いを確認しながら活動する、シャワーを浴びてからゆっくり水の中に入る、プールに飛び込まないなど、水泳運動の心得を守って安全を確かめること	プールの底・水面などに危険物がはいかを確認したり、自己の体の調子を確かめてから泳いだり、仲間の体の調子にも気を付けるなど、水泳運動の心得を守って安全に気を配ること。

・ 具体的な行動化につながる育成

27

28

2017学習指導要領
体育(学びに向かう力)健康・安全

	中学校1.2年	中学校3年	高校
本体	水の安全に関する事故防止の心得を遵守するなど、健康・安全に留意する	健康・安全を確保する	健康・安全を確保する
解説	水温や気温が低いときは水に入る時間に配慮しながら活動するなど体調の変化に気を配ること、用具の取り扱い方などの安全に留意すること、自己の体力や技能の程度に見合った運動量で練習をすること	健康を維持したり自己や仲間の安全を保持したりすること	主体的な学習の段階では、体調や環境の変化に注意を払いながら運動を行うこと、けが等を未然に防ぐために必要に応じて危険の予測をしながら回避行動をとることなど、

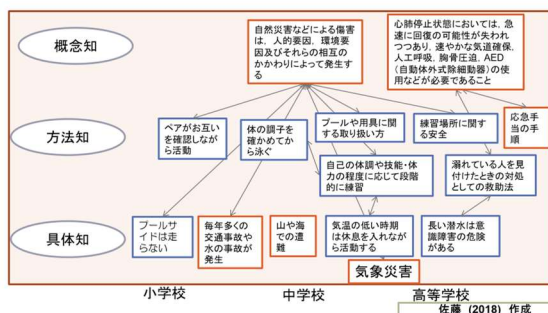
安全の留意→確保→危機回避

28

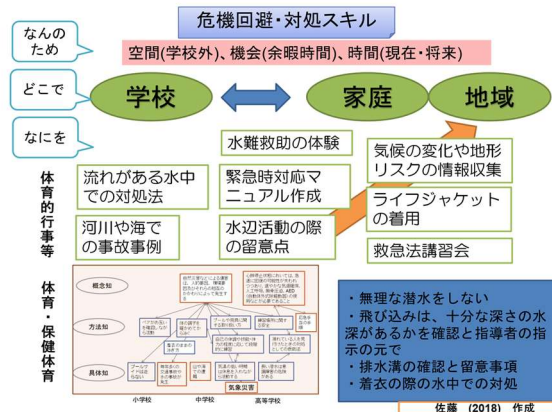
29

学校管理下(体育活動中)における水泳事故(溺水)を防ぐために

体育・保健体育では・・・領域の確実な学習と関連を図る指導の充実(2008-2009版の体育分野・保健分野の内容を視覚化)



30



[illegible][illegible]

2.1.3 安全・安心で楽しい水泳授業に向けて

パネリストによる講演

「安全・安心で楽しい水泳授業に向けて」

川上 直人

高知県高知市立横浜小学校校長

(略歴)

高知県小学校体育連盟の会長職に就いており、小学校における体育科の発展と体育科を通した児童の育成に向けて取り組んでいる。

(1)横浜小学校水泳授業の安全管理について

①水泳授業の目的と安全への取り組み

本校では、水泳授業を通して児童の体力向上と、水に親しむ態度の育成をめざしている。

②学校全体で取り組む安全対策

校長、教頭、体育主任及び体育部教員、養護教諭などで構成された「水泳授業安全委員会」を設置し、安全指針の作成・共有、緊急時の体制整備を行っている。

③健康チェックへのご協力をお願い

体温や体調、食欲、睡眠などの情報を教職員が確認し、参加の可否を慎重に判断している。

④泳ぎが苦手な児童への配慮

一人ひとりに応じた丁寧なサポートを行う。

⑤安全な水深の確保

児童の体格や学年に応じて水位を調整する。

複数教員とバディシステムで見守る。

⑥緊急時への備へ

緊急時対応マニュアルを作成し、AED の設置や緊急時の連絡体制を整え、職員全員が対応手順を共有している。

⑦熱中症・水温への対策

気温・水温・湿度を総合的に判断し、活動量を調整する。水分補給、日陰での休憩、帽子や日傘なども取り入れながら、熱中症の予防に努める。

⑧ご家庭へをお願い

水泳道具(帽子・水着・バスタオルなど)の準備と、当日の体調確認をお願いしている。

(2) 実際の授業

① 水泳授業を行う前に

- ・水泳授業事前アンケート並びに参加承諾書
- ・水泳授業を行う前の天候判断
- ・水泳授業前の健康チェック

② 適切な監視者の考え方

- ・監視者の人数と位置
大プール: 授業実施者 2 名, 監視者 1 名
小プール: 授業者 1 名, 監視者 1 名

③ 水泳の授業において

- ・適切な水位
すべての児童の両肩が水面から出るライン。
- ・バディシステムの実施
バディシステムの導入により、児童の安心感が確保された。
お互いを見合うことにより、見て学ぶ、お互いを大切に思う学習ができていた。
教え合う学びが高学年になると充実していた。
- ・熱中症対策
- ・水質管理

(3) 令和7年度の水泳授業を終えて

① 成果

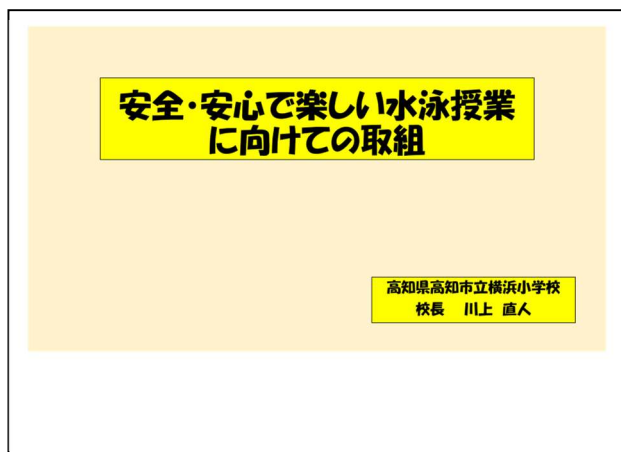
- 水泳における事故がなく、安全・安心に水泳授業が行えたこと。
- ほぼ全ての児童がたのしく水泳の授業に参加できた。
- 全教職員が安全・安心な水泳授業を行うために意識を変えた。
- 他県では水泳指導の業務委託化が行われているが、本校では十分対応でき、安全・安心な水泳授業が行えることが分かった。

② 課題

- 安全・安心な水泳授業を行うためには、教員の十分な教材研究と指導力の向上が必要。
児童の泳力を向上させるために。
- 教員が指導力を向上させるためには、教員の意識改革と打ち合わせをする時間が必要。
- 授業実施者 2 名 + 監視者 1 名以上の体制で水泳授業を継続して行うためには、人的な補充が必要。
管理職が水泳授業に参加することによる学校運営の停滞が発生。
- 児童が本当に安全・安心で楽しい水泳授業に取り組むためには、学校の環境整備が必要。
本校の場合は、水質に関することが大きな課題であった。

(4) 発表資料

1



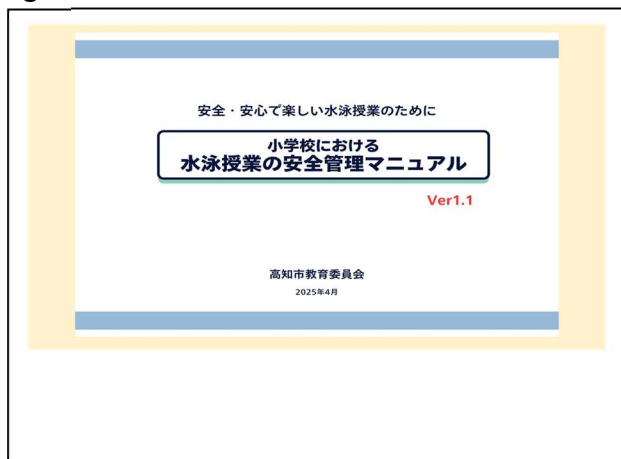
2

はじめに

令和6年7月、高知市立小学校の水泳授業中に発生した男子児童死亡事故の重大性を踏まえ、今後、同じ事故を二度と発生させないために、安全・安心で楽しい水泳授業を行うため、高知市教育委員会はこの「水泳授業の安全管理マニュアル」を策定しました。

↓ 高知市教育委員会 作成

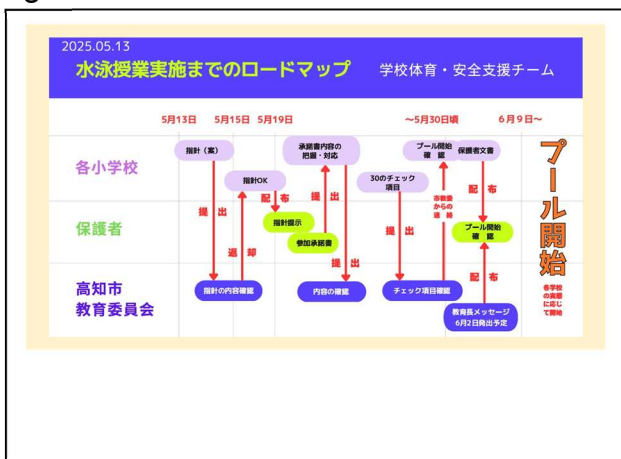
3



4



5



6

横浜小学校 水泳授業の安全管理について
—水泳授業安全管理指針の概要—

1【水泳授業の目的と安全への取り組み】
水泳は、心と体を育てる大切な授業の一つです。本校では、水泳授業を通して児童の体力の向上と、水に親しむ態度の育成を目指しています。一方で、水に関わる活動には常にリスクが伴います。そのため、児童の命を最優先に考え、「横浜小学校水泳授業安全管理指針」を作成し、安心・安全で楽しい水泳授業のための学習環境の確保に努めます。

2【学校全体で取り組む安全体制】
水泳授業安全委員会が計画から見守りまでを担います。校長、教頭、体育主任及び体育部教員、看護教諭などで構成された「水泳授業安全委員会」を設置し、安全指針の作成・共有、緊急時の体制整備を行っています。教職員全員が同じ理解のもと、連携して児童の安全を守ります。

7

3【健康チェックへのご協力をお願い】

当日の健康状態の確認が、事故防止につながります
水泳授業当日には「健康観察カード」のご提出をお願いしております。体温や体調、食欲、睡眠などの情報を教職員が確認し、参加の可否を慎重に判断いたします。
少しでも気になる点がありましたら、遠慮なくご連絡ください。



4【泳ぎが苦手な児童への配慮】

一人ひとりに応じた丁寧なサポートを行います
事前にアンケート等を通して泳力を把握し、不安のある児童には個別指導や補助員（ビート板やヘルパーなど）を用いて段階的に指導します。水への恐怖心を和らげ、安心して取り組めるような心のケアにも配慮しています。



8

5【安全な水深の確保】

児童の体格や学年に応じて水位を調整します

児童が安全に活動できるよう、1・2年生は小プール、3年生以上は大プールを基本とし、大プールでは、水深が「へそから胸あたり」になる水位を目安に設定します。また、すべての児童の肩が水面から出るよう、安全基準を守って授業を行っています。



6【安全な水深の確保】

複数教員と「パディシステム」で見守ります

大プールには常時3人以上、小プールは2名以上の教員を配置し、その中で監視者を1名以上配置してプールサイドなどから死角なく児童の様子を見守ります。また、児童同士がペアを組んで確認し合う「パディシステム」を導入し、安全意識の向上と事故防止につなげていきます。



9

7【緊急時への備え】

もしもの時にも迅速に対応できる体制を整えています
緊急時対応マニュアルを作成し、AEDの設置（体育館・プールサイド）や緊急時の連絡体制を整え、職員全員が対応手順を共有しています。
水泳授業開始前には救命処置の訓練も実施し、落ち替いで行動できる力を養っていきます。



8【熱中症・水温への対策】

涼しにも十分配慮し、無理のない運動を行います
気温・水温・湿度を総合的に判断し、活動量を調整します。水分補給、日陰での休憩、帽子や日傘なども取り入れながら、熱中症の予防に努めます。



9【ご家庭へのお願い】

安全な水泳授業のために、ご理解と協力をお願いいたします
水泳道具（帽子・水着・バスタオルなど）の準備と、当日の体調確認をお願いいたします。
また、ご不安なことやご質問がございましたら、いつでも担任または学校までご連絡ください。



10

横浜小学校 低学年の単元計画

ねらい	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
	学習の見通しを持つ	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	
学習活動	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする
評価・評価点												

11

横浜小学校 中学年の単元計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
ねらい	学習の見通しを持つ	泳ぐの準備をする・泳ぐ・深く泳ぐ・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする										
学習活動	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする
	学習の見通し	泳ぐの準備をする・泳ぐ・深く泳ぐ・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする										
	評価・評価点	泳ぐの準備をする・泳ぐ・深く泳ぐ・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする・泳ぐの準備をする										

12

横浜小学校 高学年の単元計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ねらい	学習の見通しを持つ	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする	泳ぐの準備をする
学習活動	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする	1 集合、整列、健康観察をする 2 準備運動をして、シャワーを浴びる 3 泳ぐの準備をする 4 泳ぐの準備をする 5 泳ぐの準備をする 6 泳ぐの準備をする 7 泳ぐの準備をする 8 泳ぐの準備をする 9 泳ぐの準備をする 10 泳ぐの準備をする 11 泳ぐの準備をする 12 泳ぐの準備をする
評価・評価点												

14

1 授業を行う前に

【水泳授業アンケート並びに参加承諾書】

[illegible]

- 保護者からの健康情報
- 泳力調査
- 保護者の意向

水泳参加の承諾

泳ぎが得意でない児童の把握・共有
と
可能な限りの個別対応

16

【水泳授業前の健康チェック】

プール

月日	7/16(木)
気温℃	27℃
水温℃	(A) 30℃ (B) 30℃
PPM	(A) 0 ppm (B) 0 ppm
使用	可
WBGT	29.3

安全面の確認

- 適切な気温・水温
- WBGT値（暑さ指数）

学年、水温、気温、学習内容などを考慮して実施の判断

水遊び・水泳運動 健康カード

月・日		〃	△	×
1	朝の運動			
2	水泳の時間	時間	時間	時間
3	水泳の回数(一人ひとりの泳ぎ)	回	回	回
4	水泳の距離(一人ひとりの泳ぎ)	km	km	km
5	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal
6	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal
7	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal
8	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal
9	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal
10	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal
11	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal
12	水泳の消費カロリー(一人ひとりの泳ぎ)	cal	cal	cal

健康カード

水泳授業がある日に保護者が記入

- ・体温、食欲、睡眠などの情報収集
- ・保護者による水泳授業参加の確認

保護者の協力が必要

保護者も教員も煩雑

18

3 水泳の授業において

大プール
授業実施者2名＋監視者1名
小プール
授業実施者1名＋監視者1名

あくまで監視者はプール全体を俯瞰し、児童



3名以上の確保の難しさ

ほぼ管理職が対応・・・

(1) 適切な水位:すべての児童の両肩が水面から出るライン



【成果】
○児童が安心して活動に取り組んでいた。
○苦手な児童も楽しく活動できていた。

【課題】

- 「浮く」活動が十分できなかった。
- 水をオーバーフローできないため、水面に浮かんだ虫やゴミが多く残っていた。

19

(2) バディシステムの活用: 充分な効果が得られるバディシステムと打ち合わせの確保

【4年生の単元初めの様子】



【6年生の単元中盤ぐらいの様子】



【6年生の単元後半ぐらいの様子】



【成果】
 ○バディシステムの導入により、児童の安心感は確保されていた。
 ○お互いを見合うことにより、見て学ぶ、お互いを大切に思う学習ができていた。
 ○教え合う学びが高学年になると充実していた。

【課題】
 ●教師の側に不安感が強く、必要以上にバディを意図してしまい、十分な運動量が確保できず、技能の伸びが保証できなかった。
 ●バディシステムの効果的な運用の仕方の教材研究不足。
 ●児童の運動量を確保し、技能を伸ばせるような学習形態の確立や、習熟の学習経営の不十分さにより、技能の確保ができていない。

20

(3) 熱中症対策と水質管理

① プールサイドへのサンダル
 温暖化によるプールサイドの温度の上昇
 ↓
 火傷対策

② プールサイドでの水分補給
 適度な水分補給のための水筒持参
 ↓
 熱中症対策

③ 熱中症を防ぐための環境整備
 見学者スペースの日よけと散水
 ↓
 熱中症対策

熱中症対策
 水筒
 サンダル



●水位を下けたことによる水質の悪化 → 水量が減ったことによる水の濁り
 ●水位を下けたことによる虫等の浮遊 → オーバーフローできないことによる、浮遊物の増加

21

令和7年度の水泳授業を終えて

【成果】

- 水泳における事故がなく、安全・安心に水泳授業が行えたこと。
- ほぼ全ての児童がたのしく水泳の授業に参加できたこと。
- 全教職員が安全・安心な水泳授業を行うために意識を変えたこと。
- 他県では水泳指導の業務委託化が行われているが、本校では十分対応でき、安全・安心な水泳授業が行えることが分かったこと。

【課題】

- 安全・安心な水泳授業を行うためには、教員の十分な教材研究と指導力の向上が必要。児童の泳力を向上させるために。
- 教員が指導力を向上させるためには、教員の意識改革と打ち合わせをする時間が必要。
- 授業実施者2名＋監視者1名以上の体制で水泳授業を継続して行うためには、人的な補充が必要。
- 管理職が水泳授業に参加することによる学校運営の停滞が発生。
- 児童が本当に安全・安心で楽しい水泳授業に取り組むためには、学校の環境整備が必要。本校の場合は、水質に関することが大きな課題であった。

22

令和7年度 安全・安心で楽しい水泳授業を終えて



子どもが自分の頑張りを発揮でき、
 すべての子どもがお互いの頑張りを認め合える
 安全・安心で楽しい水泳授業を実施できるように
 ご清聴ありがとうございました。

